

主に学校内外の保健・衛生問題改善に取り組む「子どもCHW」の育成、住民によるトイレ建設や建物の補修といった学校環境整備の推進などの成果が見られるようになってきました。今後は、これらの活動を継続しつつ、成果の持続性を高めるための働きかけを強化していきます。

## 栄養改善・収入向上・環境保全への取り組み

財源：味の素株式会社「食と健康」国際協力支援プログラム

環境再生保全機構 地球環境基金助成金

株式会社ラッシュジャパン チャリティバンク

期間：2008年4月～2010年3月



学校植樹祭ではみんなで果樹の苗を植える

### 活動

住民の保健状況を持続的に維持・向上させるためには、健康と密接に関係する食、そして生活を安定させる収入向上への取り組みが不可欠との認識から、2008年より企業や行政機関から助成を得て、関連する活動を開始しました。

魚と炭水化物に偏った食事を改善し、野菜・果物の活用への理解を促進するため、学校給食調理員（おやつ係）の栄養・調理知識の向上、小中学生や住民への栄養授業、学校果樹園の設置に取り組みました。また、収入向上と環境保全を両立するとされ、アマゾン東部で成果を挙げているアグロフォレストリー（森林農業）の普及をめざし、実践地域への農民派遣研修を実施しました。研修に参加した農民による農法の導入も始まっています。



おやつ係トレーニングの調理実習

### 今後

「子ども1日キャンプ」での、栄養ポスターコンテスト開催や昼食調理により、保健と一体性の高い栄養意識の向上をめざします。アグロフォレストリーに関しては、市農業局と協力しながらマニコレ市に適したシステムづくりを進めます。

## Kenya

# ケニア

## ケニア国ケリチョー県母乳育児に焦点を当てた母子保健サービス向上プロジェクト

【国際協力機構（JICA）草の根技術協力事業（パートナー型）】

対象地域：南リフトバレー州ケリチョー県

対象：ケリチョー県保健局、県内の母子保健施設（5ヶ所）のスタッフ20名、母子約5,000名、住民約61,000名

期間：2009年8月～2012年1月

南リフトバレー州ケリチョー県では、乳幼児栄養失調傾向を測る低体重児率の割合が全国平均に比べて高く、乳幼児の栄養失調は母子保健課題の一つです。本プロジェクトは、県保健局の協力のもと、母子保健施設スタッフの知識と技術の向上を通じて正しい知識をもって母乳育児を継続できる母親が増え、乳幼児の栄養状態が改善されることを目標に活動します。

## Angola

# アンゴラ

## アンゴラ国地域保健プロジェクト形成調査

【国際協力機構（JICA）民間提案型プロジェクト形成調査】

対象地域：アンゴラ国ルアンダ州

期間：2008年11月～2009年2月

## 第6回母子手帳国際会議 TOKYO 2008

日程・会場：2008年11月8日 国連大学 ウ・タント国際会議場  
 9日 国際協力機構 東京国際センター(TIC)  
 10日 茨城県常陸大宮市(フィールド視察)

主催：特定非営利活動法人HANDS

大阪大学大学院人間科学研究科国際協力学講座

協力：国連児童基金(UNICEF)、国連人口基金(UNFPA) 東京事務所

後援：外務省、厚生労働省、国際協力機構、日本医師会、日本小児科学会、  
 日本助産師会、母子衛生研究会

参加国：バングラデシュ、ブルネイ、カンボジア、ドミニカ共和国、インドネシア、ラオス、マダガスカル、モンゴル、パレスチナ、  
 ペルー、フィリピン、タイ、トルコ、アメリカ(ユタ州)、ベトナム、日本

参加者数：11月8日 320名、9日 106名、10日 55名(海外ゲストと関係者のみ)



8日 国連大学ビル ウ・タント国際会議場

大阪大学大学院人間科学研究科国際協力学講座とともに、「第6回母子手帳国際会議」を主催しました。開催にあたっては、国連機関からの協力、行政機関や医療団体などからの後援、さらには企業、医療機関などからの協賛・寄付など、様々な組織から支援をいただきました。アジアを中心に海外15ヶ国43名の代表が参加し、また、8日と9日の会議では、6回目の開催で初めて一般参加を受け付けました。

### 多くの関心を集めた、母子手帳国際会議

1日目は、秋篠宮妃殿下にもご臨席賜り、300名を越える参加者が来場しました。第1部はオープニングセレモニーとして、母と子の健康を守る国際的な情勢について国連機関代表などが講演し、第2部のパネルディスカッションでは、タイ、インドネシア、バングラデシュ、ベトナムの代表が母子健康手帳の取り組みや課題を発表しました。会場からの質疑応答も活発に行われ、手帳の様々な意義や役割について広く理解を深める機会となりました。また、会場前のホールではHANDSが所有する世界の母子健康手帳を展示したところ、多くの人が興味深そうに手に取る様子が見られました。この1日目の会議の様子はNHKニュースやNHKワールドなどにも取り上げられ、国内外へのアピールにつながりました。



10日 使用中の母子健康手帳を見せてもらう海外ゲスト

また2日目は、参加9ヶ国から国別レポートが発表されました。母子健康手帳の導入や開発を進めている国、現在活用中の国から、文化や民族、地理的な問題など、それぞれの事情や課題が示され、それに対し会場から質疑や提案が積極的に出されるなど、熱い議論が交わされました。

最終日は、日本の母子健康手帳の使用状況や保健サービスの現場を視察しました。訪問先は、子どもが20歳になるまで記録できる「親子健康手帳」が使われている茨城県常陸大宮市の、常陸大宮済生会病院と総合保健福祉センター「かがやき」です。これらの施設では、病院と保健センターとの連携、小児科医から見た日本の子どもの状況に関する講演や、親子健康手帳の開発経験についての講演を受け、その後施設内を見学しました。「かがやき」では、栄養指導や8ヶ月乳児相談の参観、親子健康手帳を使用している保護者との懇談会など、乳児やその両親と触れ合う時間が設けられ、直に母子保健サービス利用者側の意見を聞き、使用中の親子健康手帳を見る機会も得られました。3日間という短い期間でしたが、海外ゲストにとっては新たな学びと交流の場を得て、有意義な時間となりました。

### お知らせ

#### 国際会議プログラム、報告書

第6回母子手帳国際会議のプログラム、報告書をご希望の方は、HANDSまでお知らせください。

#### 母子健康手帳の貸し出し

HANDSで所有する世界の母子健康手帳の閲覧、及び貸出(一部可)をご希望の方は、HANDSまでお知らせください。

## 会議 プログラム

### ■第1日目(11月8日)

#### 第1部: オープニングセレモニー「世界にひろがる母子手帳」

ファシリテーター: 迫田朋子氏 (NHK)

講演者

- 武見敬三氏 (ハーバード大学公衆衛生大学院)
- 上田善久氏 (独立行政法人国際協力機構 (JICA))
- 池上清子氏 (国連人口基金 (UNFPA) 東京事務所)
- Dan Rohrmann氏 (国際連合児童基金 (UNICEF) 東京事務所)  
※ビデオメッセージ
- 中村安秀 (大阪大学大学院人間科学研究科 教授/特定非営利活動法人HANDS 代表理事)

#### 第2部: パネルディスカッション「母子手帳が暮らしを変える」

ファシリテーター: 中村安秀

Prof. Azrul Azwar (University of Indonesia)

パネリスト

- Dr. Sirikul Isaranurug (タイ)
- Dr. Budihardja (インドネシア)
- Dr. Dinh Thi Phuong Hoa (ベトナム)
- Dr. Shafi Ullah Bhuiyan (バングラデシュ)

### ■第2日目(11月9日)

#### カントリーレポート I

議長: Dr. Dang Van Nghi / Dr. Lourdes Herrera

報告: モンゴル、マダガスカル、ラオス、フィリピン、カンボジア

#### カントリーレポート II

議長: Dr. Kaosar Afsana / Dr. Chandavone Phoxay

報告: ドミニカ共和国、アメリカ(ユタ州)、日本、パレスチナ

#### 全体会議

議長: Dr. Sirikul Isaranurug / Dr. Shafi Ullah Bhuiyan

● Dr. Agustin Kusumayati (インドネシア大学)

「母子手帳プログラムの導入」

● 尾崎敬子氏 (JICA)

「国際協力と母子手帳」

● 森 臨太郎氏 (大阪府立母子保健総合医療センター)

「研究調査と母子手帳」

まとめ: 中村安秀

## 母子 手帳

### インドネシア

#### JICAカウンターパート研修「母子健康手帳の活用」

##### Aコース「母子手帳の母子保健向上への貢献」

対象: 3名 (インドネシア保健省・内務省関係者)

日程: 2008年11月7日～11月11日

研修内容: 第6回母子手帳国際会議への参加

##### Bコース「プログラム間・セクター間協力」

対象: 7名 (インドネシア保健省、内務省、女性グループ、民間団体関係者)

日程: 2008年11月18日～24日

視察先: 兵庫県健康生活部健康局健康増進課、神戸大学医学部保健学科、神戸大学医学部附属病院周産母子センター、神戸市保健福祉局子育て支援部、神戸市西区保健福祉部、神戸市東灘区保健福祉部、林産婦人科



育児教室に参加中の親子とふれあう研修員

JICA大阪国際センターからの委託により、JICA「すこやか親子インドネシア」プロジェクトの一環として本邦研修を実施しました。プロジェクト最終年度である2009年に向け、本研修では、「母子健康手帳の継続性強化」が重点課題となりました。研修員は、母子健康手帳の役割と政策の変遷を学ぶとともに、兵庫県の保健施設、大学病院、産婦人科など地域に密着した様々な現場への視察を通じて、母子健康手帳の活用、日本の母子保健サービスやそのシステムについての理解を深めました。これらの研修をふまえ、各研修員はインドネシアでの母子健康手帳のさらなる普及に向け、各セクター間・プログラム間における連携・協力システムの構築に向けた具体的な活動計画を作成し、最終日にそれらを発表しました。

日本での学びを携えて帰国した研修員により、インドネシアの各地域における母子健康手帳活用のさらなる質の向上と継続性をめざした取り組みが期待されます。

## 調査

### 外務省NGO専門調査員

「企業及び自治体との連携による国際理解教育の持続的実施について」(2008年5月～2009年3月)

1年間にわたる「外務省NGO専門調査員」の支援を得て、滋賀県、大阪府、和歌山県のNGO、自治体や国際交流協会、インドネシアのNGOや日系企業を訪問し、企業及び自治体との連携による国際理解教育の持続的実施の可能性についての調査・研究を行いました。

### 「NGO(保健医療分野)の人材育成に関するアンケート調査」

国際保健分野のNGOスタッフや協力者を対象に、NGOスタッフに求められる能力と、能力を身につけるために必要な方法・機会を把握するための調査を行いました。その結果、NGOスタッフには、コミュニケーション能力・マネジメント能力と、保健医療分野の専門能力のバランスが求められていることが明らかになりました。

## 第4回HANDSセミナー チャレンジ！国際保健協力の人材育成連続セミナー

本セミナーは、財団法人倶進会の助成により開催しました。

### Part1 基礎知識編「国際保健協力で働くということ」

日程：2008年6月21日 会場：東京ガーデンパレス鶴の間 参加：40名  
講師：国立国際医療センター 国際医療協力局 仲佐保氏  
HANDSプログラム・アドバイザー 和田知代

医療系分野出身者のキャリアパスとして、仲佐保氏は国際保健協力に関する組織、また現場で活躍するプレーヤーについて、ご自身のカンボジアでの経験を元に話されました。一方、非医療系分野出身者として、和田知代より自身を含め7人のキャリア・ケースが紹介されました。様々な学部出身者の国際保健協力へのユニークな関わりと活躍に、参加者全員が大きな関心を持ったようです。また、参加者の多くは大学生だったため、質疑応答では進路に関する具体的な質問が多くあがりました。

### Part2 キャリア・カウンセリング編「国際保健協力のキャリア・カウンセリング」

日程：2008年7月19日  
会場：東京ガーデンパレス白鳳の間 参加：30名  
講師：国立国際医療センター 派遣協力専門官 明石秀親氏  
長崎大学大学院教授 大西真由美氏  
津田塾大学非常勤講師 藤崎智子氏  
長崎大学大学院准教授 松山章子氏



Part2のパネリスト

各講師より「私が歩んだ国際保健の道」をテーマに、国際保健協りに関わったきっかけや経歴、豊富な活動経験などについて講演いただきました。講師の話には、個性や感性を大切にしながら、自身のキャリアアップをはかるためのヒントが多く詰まっていました。

セミナー後半は、講師と参加者が小グループに分かれてのキャリア・カウンセリングが行われ、参加者にとっては大変貴重な時間となりました。

※株式会社南山堂様のご協力により、「国際保健医療のお仕事 改訂2版」(中村安秀編著)の当日売り上げの一部をHANDSへご寄付いただきました。

## 第5回HANDSセミナー 地域とともに～安全・安心なお産をめざして

日程：2008年9月6日  
会場：JICA国際協力総合研修所(現 JICA研究所) 国際会議場  
参加：80名  
講師：マタニティ・コーディネーター、  
写真家、HANDSテクニカルアドバイザー きくちさかえ氏  
ケニアプロジェクト チーフアドバイザー 原口珠代  
元ケニアプロジェクト専門家、助産師 北川由美子氏



プロジェクト報告を熱心に聞く参加者

第1部では、きくちさかえ氏講演「伝統からグローバル医療化へ、変わるものと守りたいこと」が行われました。きくち氏は、専門家の視点から伝統的な出産スタイルについて紹介するとともに、自身で撮影された写真を交え、2007年に視察したケニアの出産現場(HANDS活動地)の状況を話されました。

第2部は、2005年より2008年3月までの3年間、ケニア西部のキシイ県・ケリチョー県で実施した、JICA提案型技術協力プロジェクト(PROTECO)「ケニア西部地域保健医療サービス向上プロジェクト(SAMOKIKEプロジェクト)」について、帰国した専門家から報告しました。コミュニティレベルでの妊産婦ケアの改善や、ヘルスセンターの機能強化をめざした活動、また医療関係者と住民代表と一緒に参加したことで予想を超える成果が見られた「パートナーズワークショップ」について詳しい説明がありました。

また、会場前のホールでは、きくち氏がケニア訪問の際に撮影した写真20点ほどを展示したミニ写真展を併催しました。

## 国際保健連続セミナー

地球の“いま”を知ろう! ～途上国の女性と子ども、いのちと健康～

### 第1回「日本発～世界に広がる母子手帳」

日程：2009年6月9日

会場：世界銀行 東京開発ラーニングセンター 参加：70名

講師：HANDS代表理事、大阪大学大学院人間科学研究科教授 中村安秀

主催：特定非営利活動法人HANDS、世界銀行情報センター (PIC)

女性や子どもの命と健康を切り口に、世界の現状を伝える全7回の連続セミナーの初回として、中村代表理事が世界の母子健康手帳について講演を行いました。

母子を守る世界の動きから、日本の母子健康手帳の誕生・普及の歴史、そしてインドネシアをはじめ、世界の国々に広がる母子健康手帳について話がありました。また、途上国で使う利点と共に弱点もあること、途上国での普及をめざすにはある程度の保健医療システム等の基盤が必要であること、そして今後の新しい母子健康手帳の可能性についても説明がありました。

質疑応答では参加者から多くの意見や質問が寄せられ、その関心の高さが伺えました。

※講演のビデオ映像は、世界銀行Webサイト (<http://go.worldbank.org/0RYSCV5FZ0>) にて配信されています。

セミナーをはさんだ6月1日から12日までの間、世界銀行情報センターでは、「みらいを生きる! 地球のこどもたち」写真&パネル展を開催し、HANDS活動地で撮影した子どもたちや親子の日常と、その背景にある保健事情について紹介しました。



講演を行う中村代表理事

## 第23回日本国際保健医療学会学術大会

日程：2008年10月25日、26日

会場：国立国際医療センター

- ワークショップ「国際保健で働くために! 身につけるものと具体的な方法」

「NGOスタッフに求められるもの」

横田雅史

- 一般演題(口演発表)

「ボトムアップ型の住民参加活動モデル—南スラウェシ州地域保健運営能力向上プロジェクトの経験—」

中村安秀、八田早恵子、川原恵樹氏(財団法人国際開発センター)

「アマゾン遠隔地学校における健康づくりプロジェクト—「小さなCHW」の活躍のために—」

溝上芳恵、定森徹、中村安秀

「アマゾン遠隔地学校における保健改善課題」

定森徹、溝上芳恵、和田知代、中村安秀

- 一般演題(ポスター発表)

「ケニア西部地域保健医療サービス向上プロジェクトの終了時報告～コミュニティとともにめざす安全なお産～」

永野純子、原口珠代、高橋圭子、清水育子、北川由美子、中村安秀

### プロジェクト写真展

LIFE in Amazon  
～HANDSブラジルプロジェクト写真展

日程：2008年11月1日～16日

会場：4S+(クワトロエスプラス)

共催：国際協力機構 (JICA)

### 世界で輝く日本のNGO ～水と衛生編

日程：2009年6月16日～28日

会場：JICA地球ひろば

主催：国際協力機構 (JICA)

参加団体：HANDS、カラ＝西アフリカ農村自立協会、  
シェア＝国際保健協力市民の会、東ティモール  
医療友の会

### 講演・発表

### 第8回「NGO/NPO・企業環境政策提言フォーラム」

日程：2009年5月27日

会場：航空会館 主催：環境省

「平成20年度NGO/NPO・企業環境政策提言」において、HANDSの提言「アマゾン熱帯雨林におけるアグロフォレストリー普及とアグロフォレストリー認証制度の制定」が「優秀に準ずる提言」に選ばれ、提言内容をフォーラムで発表しました。

### AIESEC東京大学委員会ブラジルイベント

「いべろだよ、全員集合!」

日程：2009年6月28日

会場：カフェ・ド・セントロ丸の内店

主催：アイセック・ジャパン東京大学委員会中南米プロジェクト

## HANDSのあゆみ (おもな活動)

| 年    | 月   | 活動地  | 内容  |
|------|---|--|---|
| 2000 | 1<br>11   | 日本<br>タイ<br>各国   | HANDS設立<br>MSH/HANDSテクニカルセミナー (2005年までに計17回) 開催<br>第1回「アジア臨床検査技師研修」 共催<br>MSH岩村国際保健フェローシップ・プログラム 実施 (~2005年)  |
| 2001 | 3<br>3<br>4<br>10   | ケニア<br>ブラジル<br>インドネシア  | 特定非営利活動法人 (NPO法人) 格 取得<br>STI/HIVに必須な医療薬品機材供給・管理システムに関するプロジェクト形成調査<br>アマゾン河流域コミュニティ母子保健・エイズ予防プロジェクト 開始<br>第2回国際母子健康手帳シンポジウム 開催  |
| 2002 | 6<br>10   | アフガニスタン<br>カンボジア   | リプロダクティブ・ヘルス現状/全国保健医療施設調査<br>JICA「感染症簡易無償調査」 実施   |
| 2003 | 2-3<br>6<br>10<br>10-11                                   | 日本<br>アフガニスタン<br>ブラジル<br>メキシコ  | 「インドネシアにおける母子保健」研修 実施<br>保健医療システム再構築 (REACH) プロジェクト 開始<br>アマゾン地域保健強化プロジェクト 開始<br>オアハカ州母子保健 短期専門家派遣  |
| 2004 | 7<br>8-9  | ザンビア<br>日本   | 保健投資計画策定支援プロジェクト 短期専門家派遣<br>「インドネシアにおける母子保健」研修 実施   |
| 2005 | 3   | ケニア  | 西部地域保健医療サービス向上プロジェクト (JICA提案型技術協力「PROTECO」) 開始  |
| 2006 | 2<br>8  | 日本<br>ブラジル   | 「パレスチナ母子健康手帳の作成と効果的運用」研修 実施<br>アマゾンの森とともに健康に生きる—マニコレ市における地域保健強化プロジェクト 開始  |
| 2007 | 1<br>2<br>2<br>3<br>6<br>9<br>9<br>9                      | 日本<br>インドネシア<br>日本<br>日本<br>日本<br>日本<br>ブラジル<br>日本                         | 第1回HANDSセミナー 「女性と子どもの健やかな未来のために～国際保健協力への期待と可能性～」 開催<br>南スラウェシ州地域保健運営能力向上プロジェクト 開始<br>「パレスチナ母子健康手帳マネジメント」研修 実施<br>「インドネシア母子健康手帳の活用」研修 実施<br>第2回HANDSセミナー 「格差社会での奮闘～都市部とアマゾンの保健医療活動～」 開催<br>第3回HANDSセミナー 「国際保健協力への招待～コミットメントの力～」 開催<br>アマゾン遠隔地学校における健康づくりプロジェクト 開始<br>「インドネシア母子健康手帳～地域における活用」研修 実施  |
| 2008 | 1<br>4<br>4<br>6<br>6-7<br>8<br>9<br>11<br>11<br>11<br>12 | 日本<br>ブラジル<br>ブラジル<br>スーダン<br>日本<br>ホンジュラス<br>日本<br>日本<br>日本<br>日本<br>エジプト | 「パレスチナ母子健康手帳マネジメント」研修 実施<br>アマゾン農村部コミュニティにおける学校を通じた栄養改善プロジェクト 開始<br>アマゾン西部におけるアグロフォレストリー普及活動に関する活動 開始<br>フロントライン母子保健強化プロジェクト 開始<br>第4回HANDSセミナー 「チャレンジ! 国際保健協力の人材育成連続セミナー」 開催<br>オランチョ県思春期リプロダクティブヘルス強化プロジェクト 開始<br>第5回HANDSセミナー 「地域とともに～安全・安心なお産をめざして」 開催<br>「インドネシア母子健康手帳の活用—母子手帳の母子保健向上への貢献」研修 実施<br>「インドネシア母子健康手帳の活用—プログラム間・セクター間協力」研修 実施<br>第6回母子手帳国際会議 開催<br>上エジプト学校保健サービス促進プロジェクト 開始 |
| 2009 | 6   | 日本   | 国際保健連続セミナー第1回 「日本発～世界に広がる母子手帳」 開催   |

## 調査・報告書

| 年    | 月       | 内容  |
|------|---------|---|
| 2001 | 3<br>11 | 「ODAとNGOの連携協力強化に向けて—保健医療分野における欧米の事例に学ぶ強化戦略」(外務省委託調査)<br>「フォーカス・グループ・マニュアル」(「フォーカス・グループ・ディスカッションの理論と実践」報告書)  |
| 2002 | 3<br>12 | 「避妊薬(具)の安定的供給に関する調査報告書」(外務省委託調査)<br>"Afghanistan National Health Resources Assessment"<br>Prepared for the Ministry of Health by MSH, HANDS, and MSH / Europe                       |
| 2003 | 3<br>3  | 「HIV/AIDS予防ケアの基礎となるVCT活動のアフリカにおける現状調査と今後のわが国による支援に関する提言」(外務省委託調査)<br>"Afghanistan Reproductive Health Resources Assessment-Summary Findings and Recommendations" Prepared for UNFPA |
| 2004 | 2       | 「ミレニアム開発目標(妊産婦死亡率の低減)に向けた日本の援助のあり方に関する調査」(外務省委託調査)  |
| 2005 | 3<br>3  | リプロダクティブヘルス分野の効果的アプローチに関する調査研究(詳細分析)「妊産婦ケア」(JICA報告書)<br>同上「思春期リプロダクティブヘルス」  |
| 2007 | 12      | 緊急支援活動・開発援助事業に赴く日本のNGOに役立つハンドブック作成のための調査<br>「NGOフィールドスタッフのための健康・安全対策ハンドブック」(外務省委託調査)  |
| 2008 | 11-2    | アンゴラ国地域保健プロジェクト形成調査 (JICA民間提案型)   |
| 2009 | 2<br>3  | 「アマゾン西部におけるアグロフォレストリー普及に関する調査・セミナー」報告書<br>「NGO(保健医療分野)の人材育成に関するアンケート調査」報告書  |



## 組織概要・役員一覧 (2009年8月31日現在)

### 理事 (五十音順)

|           |  |
|-----------|--|
| 内田 和成     | 早稲田大学ビジネススクール 教授<br>株式会社 ボストン コンサルティング グループ シニア・アドバイザー   |
| 北沢真紀夫     | 株式会社 ボストン コンサルティング グループ プリンシパル   |
| 田貝 正之     |  |
| 中村 安秀     | 大阪大学大学院人間科学研究科 教授<br>特定非営利活動法人HANDS 代表理事   |
| フィッシュ東光厚子 | Consultant for US-Japan Cross Cultural Communication<br>Chairman of Asian Task Force Against Domestic Violence |
| 三砂ちづる     | 津田塾大学国際関係学科 教授   |
| 横田 雅史     | 特定非営利活動法人HANDS 事務局長  |
| 李 節子      | 長崎県立大学シーボルト校大学院人間健康科学研究科 教授  |

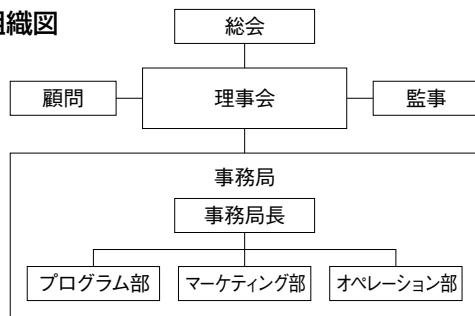
### 監事

北村 大 北村法律事務所

### テクニカル・アドバイザー (五十音順)

|        |                                       |
|--------|---------------------------------------|
| 大西真由美  | 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 教授                  |
| 小貫 大輔  | 東海大学 教養学部国際学科 准教授                     |
| 神谷 保彦  | 長崎大学 国際連携研究戦略本部 教授                    |
| きくちさかえ | マタニティ・コーディネーター、写真家                    |
| 高村 寿子  | 自治医科大学 地域医療学センター<br>公衆衛生学部門・看護学部 客員教授 |
| 板東あけみ  | ベトナムの子ども達を支援する会 事務局長                  |

### HANDS 組織図



### スタッフ

|        |                          |
|--------|--------------------------|
| 東京     | 16名 (常勤9名、非常勤5名、インターン2名) |
| ブラジル   | 日本人1名、ローカルスタッフ4名         |
| ケニア    | 日本人2名、ローカルスタッフ5名         |
| インドネシア | 日本人1名                    |
| スーダン   | 日本人2名                    |
| ホンジュラス | 日本人1名                    |
| エジプト   | 日本人1名                    |

## 支援者・団体、協力組織 ご支援、ご協力に、深く感謝いたします。

### 支援者

正 会 員：個人会員61、法人会員3 (医療法人社団レニア会きよせの森総合病院、株式会社フジタプランニング、特定非営利活動法人チャリティ・プラットフォーム)  
賛助会員：個人会員32、学生会員15

### おもな事業委託・助成・支援団体 (設立以来)

外務省、厚生労働省、(独)国際協力機構 (JICA)、国連人口基金 (UNFPA)、米国国際開発庁 (USAID)、Management Sciences for Health (MSH)、(社)日本臨床検査技師会、(財)トヨタ財団、Fish Family Foundation、The David and Lucie Packard Foundation、The William and Flora Hewlett Foundation、(財)国際協力推進協会、(財)東京国際交流財団 (現 (株)東京国際フォーラム)、(財)庭野平和財団、(株)タックインターナショナル、(株)フルッタフルッタ、鹿島建設 (株)総務事務センター、大阪ロータリークラブ、Yamaha Motor da Amazonia Ltda., Moto Honda da Amazonia Ltda.

### 2008年度の おもな協力組織

外務省、厚生労働省、(独)国際協力機構 (JICA)、国連児童基金 (UNICEF) 東京事務所、国連人口基金 (UNFPA) 東京事務所、世界銀行東京事務所、(財)国際開発センター (IDCJ)、(財)俱進会、(財)母子衛生研究会、(社)日本医師会、(社)日本小児科学会、(社)日本助産師会、(独)環境再生保全機構、システム科学コンサルタンツ (株)、味の素 (株)、(株)ラッシュジャパン、(株)南山堂、大阪大学大学院人間科学研究科国際協力講座、常陸大宮済生会病院、常陸大宮市総合保健福祉センター「かがやき」、兵庫県健康生活部健康局健康増進課、神戸大学医学部保健学科、神戸大学医学部付属病院周産母子センター、神戸市保健福祉局子育て支援部、神戸市西区保健福祉部、神戸市東灘区保健福祉部、林産婦人科

## 会員制度 さらに充実した活動を行っていくために、あたたかいご支援をお願いいたします。

### 正会員

(会員総会において発言および議決に加わることができます)

- ・個人会員 年間 10,000円
- ・法人会員 年間 100,000円

### 賛助会員

(会員総会にオブザーバーとして出席できます)

- ・個人会員 年間 5,000円
- ・学生会員 年間 2,000円
- ・法人会員 年間 50,000円